

O1-003

児童相談所で受理した虐待が疑われる乳幼児頭部外傷(AHT)を起こした子どもや母親の身体的側面などに関する状況の検討

元山 彩織

中京学院大学 看護学部

O1-004

[演題取下げ]

【目的】

筆者らの、A児童相談所でAHTを起こし受理された子どもの家庭や支援状況に関する前研究の結論の1つとして、子どもの低年齢や元々身体的なデリケートさがある可能性も示唆された。したがって本研究では、予防対策の方向性を多面的に検討するため、A児童相談所でAHTを起こし受理された子どもや母親の身体的側面などに関する状況を明らかにすることを目的とする。

【方法】

平成15年度から11年間に、AHTで受理された24名の子どものケース記録の既存資料を対象として調査を行った。調査項目は、子どもの年齢(月数)、低出生時体重、出生時の異常の有無などである。統計分析を行い、解析ソフトはIBM SPSS Statistics Version 24を使用した。倫理的配慮として、データはID化および数値化により個人が特定できないよう収集したもので分析を行った。データ保存は暗号化して情報漏洩防止に努めた。児童相談所とは個人情報などに関し、口頭および文書で契約を交わした。筆者の所属大学の研究倫理審査委員会にて、倫理審査の承認を得た(16-4)。

【結果】

対象児20人(4人は不明)の出生時体重の平均は2,652gであったが、2,500g以下の子どもは7人(35%)で、出生時体重の平均は1,793(SD=409.6)g、AHT受理時の年齢(月数)の平均は5.4か月(SD=3.33)であった。出生時の子どもに呼吸状態の異常や黄疸、先天性心疾患などがありNICUへ入院していたもの、および早期産や吸引分娩などであったのはともに7名全員であり、何らかの問題があった。また、出生前の母親の状態でも高血圧や蛋白尿などの異常があったのは、4名だったが、3人は不明であり詳細情報は聴取していなかった。生後の母親の精神状態として、EPDSが高得点ものや子どもが小さく生まれたことに対する嫌悪感などもあるが、やはり情報を聴取していないものがほとんどであった。養育者の説明では、後ろへ倒れたことや落としてしまったこと、頭部がガクガクと動くベビーカー移動などが多かったことなどが挙げられた。

【考察】

データでは不明な情報が多く存在するが、子どもの出生時体重の少なさを含めた子どもや母親の身体的・精神的側面の検討は、今後も必要性があることが伺えた。各機関がAHTの子どもや家庭と関わる際の支援内容に対するアセスメントとしてどんな情報が必要かを検討していく必要があり、現在その調査を進めている段階である。利益相反に関する開示事項はありません。